

【日本人学校】

令和 6 年度が終わりました

日本人学校では、3月7日に卒業式を行いました。G6（小学部 6 年生）と G9（中学部 3 年生）16 名が一人一人卒業証書を受け、巣立っていきました。卒業生の中には日本へ帰国するお子さんもあり、こちらで進学するお子さんとの別れもありました。日本の卒業式のスタイルですが、少人数の良さを活かし、一人一人の想い・言葉が伝わる式でした。卒業記念として校舎入口のウエルカムボードを作成しました。11 日には帰国児童・生徒のお別れ会、修了式、離任式を行いました。サイン色紙やお別れの言葉を書いた手紙を記念として渡しました。ラマダン月で、見送りの曲は流しませんでした。



アラブ首長国連邦 No.4 03/20Thu.



マルハバン 通信

<http://www.jsaduae.com/>

مرحبا (マルハバン)「やあ」

Japanese School in Abu Dhabi での様子です。

発行：滝澤 富明（新潟市立牡丹山小 籍）

今年は G6 という、6 年生 10 人の担任。6 年の理科・社会・総合学習・外国語・道徳・学活のほか、中学 1・2・3 年生の理科も担当しています！



【令和 6 年度が終わりました】

一年間、「生きる力」の育成、学力の向上に尽力してきました。特に、理科教員として、中学部の指導や評価テスト、理科室の環境整備や実験観察・ICT を活用した授業実践に取り組んできました。

アブダビの日本人学校は公的に現地のお子さん（エミラティ）を受け入れている学校です。日本語で授業を受けるエミラティ児童・生徒からはたくさんのことを学びました。彼らはアラビア語、英語、日本語を駆使して学習しています。自国と日本の文化や習慣などの違いにストレスを抱える中、学習や学校生活に対するモチベーションを保たせることに努めましたし、日本の文化や習慣を伝えたり、日本語の語彙を理解させたりすることに配慮しました。過去、「日本語しか使ってはいけない」「学習態度が良くない」等、厳しい指導を受けてきたお子さんもありました。ある意味「合理的配慮」が必要な児童・生徒たちです。「児童・生徒の実態を掴む」、「叱る」だけではなく「大いに褒めること」、「丁寧に説明する」、「何が分かって何が分からないのか理解する」、「主体的、協同的に学習を行わせる」等について、日本人とエミラティ児童・生徒ともに、今後も配慮しながら実践をしていきたいと思っています。

「ラマダン月」について

ヒジュラ暦第 9 月を指し、2025 年 3 月 1 日から 31 日まで（国によって異なる）は、世界中のムスリム（イスラム教徒）は日の出から日没まで断食を行います。喧嘩や悪口、闘争など忌避されるべきことや、喫煙などの欲も経ちます。空腹や自己犠牲を経験し、飢えた人や平等への共感を育むことを目指しているのだそうです。健康上の理由、10 歳未満や年配の方は行わない場合もあるそうです。日本人は断食はしませんが、水を飲む場合等、児童・生徒も職員もエミラティやムスリムの職員に見えないようにします。4 校時で下校、音楽や体育の授業はしないなど配慮しています。相当辛いように想像しますが、「慣れます」「健康になるんだよ」という声もありました。

日中の街は人が少なく、飲食店の営業時間が変更されたり、出歩く人が少なくなったりと、閑散としています。モスクや街の空き地には、日没近くになると、イフタール（朝食、断食を破ることを無料（施し）で配ったり、安く提供されたりします。



